

☆ Society of Japan Clinical Dentistry ☆

2019 年度 日本臨床歯科医学会東京支部 第 1 回例会のご案内

新緑の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、来る 6 月 2 日（日）に開催されます 2019 年度 東京 SJCD 第 1 回例会についてご案内申し上げます。

今回はインサーストレージングとして、東京 S J C D 元会長でありペリオドンタルマイクロサージェリーの世界的トップランナーである鈴木真名先生に歯周形成外科に関する様々な症例を提示していただき、最新のアップデートをしていただける予定です。

また、会員のケースプレゼンテーションにおいては、合同例会で活躍された構義徳先生と中村茂人先生、また新人枠として内野雄介先生をお願いしております。

今回は、大変充実した内容となっており、満足度の高い例会になると予想しております。例会後には毎年大好評の懇親会も用意しておりますので、皆様お誘い合わせの上、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日 時 2019 年 6 月 2 日（日） 受付開始 9:30 / 開演 10:00～17:00

会 場 都市センターホテル/コスモスホール 3F

懇親会会場 17:30～ / 都市センターホテル オリオン 5F

所在地 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-1 **TEL** 03(3265)8211

今年度より東京 SJCD のホームページ「会員ログイン」の「イベント」より事前登録をお願いいたします。また、当日は QR コードでの受付となりますので、ご準備ください。

-教育講演-

『 Maximization of Pink Esthetic by Periodontal Plastic Surgery ~ Key point to success ~ 』

鈴木歯科医院 鈴木 真名 先生

-一般講演-

『白歯の干渉により咬合崩壊を起こした患者に対し

ビルドアップとインプラントを用いて咬合再構成した症例』

高橋歯科医院 内野 雄介 先生

『機能と歯周組織への調和を考慮した全顎的な審美修復』

デンタルクリニックアレーズ銀座 中村 茂人 先生

『Interdisciplinary management for complex patient

:An attempt to control mandibular position: A case report.』

六本木カマエデンタルオフィス 構 義徳 先生

-教育講演-

『 Maximization of Pink Esthetic by Periodontal Plastic Surgery ~ Key point to success ~ 』

鈴木真名(鈴木歯科医院)

■ 略歴

1984年 日本大学松戸歯学部卒業

1989年 鈴木歯科医院 開業

2008年 鶴見大学歯学部 口腔顎顔面インプラント科非常勤講師

2009年 日本大学松戸歯学部 客員教授

■ 所属

日本臨床歯科医学会理事、日本歯周病学会専門医、日本臨床歯周病学会指導医、日本顕微鏡歯科学会理事、指導医、

AAP(American Academy of Periodontology)会員

■ 抄録

歯周形成外科の概念は、今、変革の時を迎えていると考える。従来、歯周形成外科は補綴前処置という位置付けにある。しかし、精密な処置を行うことで、“計算できる術式”という認識を持つ術者が増えてきている。計算できる施術を行うことで、歯周形成外科は補綴処置の後に起こってしまった問題点に対するリカバーの目的で適応できるようになってきている。

しかしながら、計算のできる精度の高い手術を実践するには、術者が理論を十分理解し、高いスキルを持たなければならない。それには、当然、精度を追及するための器具、機材が必要になることは言うまでもない。

筆者は 20 年以上歯科臨床にマイクロスコープを用いている。そして、歯周形成外科の分野においても同様である。

本講演において、様々な歯周形成外科の術式の中で、どのような点に細部にわたり注意を払い、審美的な結果を伴った治癒を獲得するか、その理論をエビデンスベース、また、仮説をまじえて、考察する。

- 一般講演 1 -

『臼歯の干渉により咬合崩壊を起こした患者に対しビルドアップとインプラントを用いて咬合再構成した症例』

内野 雄介(高橋歯科医院)

■ 略歴

2010年 日本歯科大学生命歯学部 卒業

2011年 高橋歯科医院 勤務

2015年 SJCD レギュラコース受講

2019年 はせがわ歯科医院 勤務

■ 所属団体

日本臨床歯科医学会東京支部

■ 抄録

昨今、歯科界には様々なトレンドが生まれ術式や材料は大きな発展を遂げている。しかし、治療を成功に導くために最も重要なことは、基本である診査・診断と包括的な治療計画の立案・実行であり、それが永続性のある治療へ繋がると考える。

本症例は 57 歳女性、欠損部の回復を主訴に来院された。臼歯の治療の繰り返しや欠損の放置により干渉を起こし補綴が所々壊れ、咬合崩壊を起こし始めている状態であった。

欠損がある患者に対して、「現状の把握」「原因の究明」「問題点の抽出」を考察。残存歯の保全と機能回復を目的として立案したトリートメントプランに基づき、取り組んだ全顎治療の症例をご報告させていただきます。

- 一般講演 2 -

『機能と歯周組織への調和を考慮した全顎的な審美修復』

中村 茂人 (デンタルクリニックアレーズ銀座)

■略歴

2000年 日本大学松戸歯学部卒業
2002年 原田歯科クリニック勤務
2007年 土屋歯科クリニック&Works 勤務
2008年 デンタルクリニック アレーズ銀座 開業
2013年 University of Southern California 卒後研修 終了書

■所属団体

日本臨床歯科医学会東京支部理事 東京 SJCD レギュラーコースインストラクター 日本顎咬合学会会員
日本臨床歯周病学会会員 日本歯周病学会会員 ITIメンバー OJ 正会員

■抄録

近年、接着の概念から低侵襲なセラミック修復が可能となり、できる限り削ることなく、透明感のある歯を再現することが可能となった。一方で患者の要求度が増し、細かな点まで求められるようになったことは否めない。また、MI (Minimally invasive) とはいえ、削ることに変わりはなく、後戻りできないことを認識する必要がある。つまり、下顎位や咬合といった機能的な側面や顔貌との調和、歯周組織への配慮などの包括的な診査の上で行わねばならないことも変わりはないといえる。さらに審美的要求の強い患者は、細部にわたっての要求度が高いため、少しの失敗が致命傷となる。そのため、歯周外科を行う際にも、より安全な術式を選択し、より繊細な施術でなければ対応できないともいえるだろう。

今回、審美的要求の強い患者に対し、診査診断から『できること』『できないこと』『失敗のリスク』などのディスカッションを行い、ステップごとの再評価を重ね、顎位や咬合、歯周組織の環境を整えて審美的改善を測ったことで、結果的に患者満足を得られた症例を、実際の術式などを含め報告する。

- 一般講演 3 -

『Interdisciplinary management for complex patient

:An attempt to control mandibular position: A case report.』

構 義徳 (六本木カマエデンタルオフィス)

■略歴

1999年 愛知学院大学 歯学部 卒業
タツキ歯科 勤務
2002年 東京 SJCD レギュラーコース受講
2008年 医療法人 聖和会 六本木シンフォニークリニック歯科・内科 分院長
2013年 六本木カマエデンタルオフィス開業 現在に至る

■所属団体

日本臨床歯科医学会東京支部 愛知学院大学 高齢者歯科学講座インプラント科 研究生
日本補綴歯科学会 日本口腔インプラント学会

■抄録

歯を失う原因には、カリエス、歯周病など様々な要因がありますが、根本的要因には、不正咬合が関与していることが少なくない。その不正咬合を改善しないで治療を行なっても長期的な予後は期待できない。そのため、治療計画に矯正治療が必要になる場合が多く、それにより複雑な治療が非常にシンプルに目標ゴールに到達することができるようになりました。しかしながら、一般的に治療が長期化することと、思い通りに歯の移動が伴わないのが現実的な悩ましい問題でもある。これには、上下顎の前後、左右的なディスクレパンシーを“抜歯で解決する”傾向が強いことが影響している。

今回、2011年から実践しているコンセプトを診断、治療に利用することで、2級の患者さんに対して良好な治療結果を得た症例をみなさんと供覧し、ディスカッションしていきたいと思っております。